

(知多市) 旭南中学校区地域学校協働本部

市町村の 基本情報	学校数	小学校 10 校、中学校 5 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置	統括的な地域学校協働活動推進員		0 人
		地域学校協働活動推進員		4 人
	状況	統括コーディネーター		1 人
		地域コーディネーター		0 人
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 3 校	中 1 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 3 校	中 1 校	



(活動の実際)

<知多市の取組>

令和 4 年度、南粕谷小学校をモデル校としてスタートした活動は、本年度旭南中学校区全体に展開した。今後は、中学校区単位で導入を進め、市内全域に活動を展開していく。順次導入を進めたことで、行政が伴走者として地域や学校に丁寧に寄り添うことができている。

<旭南中学校の活動内容> (地域学校協働活動推進員 (以下「推進員」という。) の動き)

1 地域の力を学校へ

○1 年生総合的な学習の時間「防災 地域に学ぶ」

5 月、学校から旭南中学校区の推進員に対し、地域の方から体験を交えた話を聞きたいとの依頼→東日本大震災でボランティア活動に参加したり、能登半島地震で救援活動に参加したりした行政職員や消防署員に声かけ→学習会を開催→11 月、地域の方々を招いての発表会

2 中学生の力を地域へ

○ボランティア活動

地域担当者→3 小学校区の推進員に、地域行事等の中学生ボランティア依頼→旭南中学校区の推進員に報告→生徒昇降口付近の掲示板をとおして生徒に周知→生徒の応募結果を 3 小学校区の推進員に伝達→当日の地域行事では中学生の活動の様子を観察→活動後には、中学生から感想等の聞き取り

(◎成果と●課題)

- ◎地域や学校にとって、窓口が推進員に一本化されたことで、協働することが円滑にできるようになった。
- ◎従来、教頭が担ってきたつなぎ役を推進員が担うことで、教頭の負担が軽減された。
- ◎中学校区で毎月情報交換会を実施することで、推進員同士の情報共有が進んだ。
- 仕組みが導入されたばかりで、生徒にボランティア活動の内容が十分周知できていない。
- 地域全体が仕組みを理解し、無理なく活動を継続するには、焦らずに浸透を図っていく必要がある。

(関係者の声)

- ・これまで関係団体との折衝等を全て教員でやってきたが、推進員がつかないでくれることで生徒と向き合う時間が取れるようになった。推進員に甘えすぎないようにしたい。<教員>
- ・こちらの都合にできるだけ合わせてくれるなど、推進員の配慮に感謝している。推進員がつかないでくれるおかげで他団体が行っている内容を知ることができ、コラボレーションの可能性を考える機会となった。
<地域担当者>
- ・ボランティア活動と聞くと難しそうと思っていたが、推進員からの勧めでいざやってみると地域の方々と話をしたり、「ありがとう」と言われたりして、機会があればまた参加してみたいと思った。<中学生>